

歴史的風致形成建造物の概要

(No. 3)

ふりがな	しょうろうどう	ふりがな	よこてし
名称	鐘楼堂	所有者	横手市
用途	鐘楼堂	建築年代	戦前
重点区域	北部重点区域	指定等	未指定
ふりがな	よこてしとまち	指定基準	エ その他、横手市の歴史的風致の維持及び向上を図る上で重要なもので、市長が認めた者
所在地	横手市本町1番地内		

特徴・所見
(歴史的風致を維持・向上する上での必要性・景観的価値など)

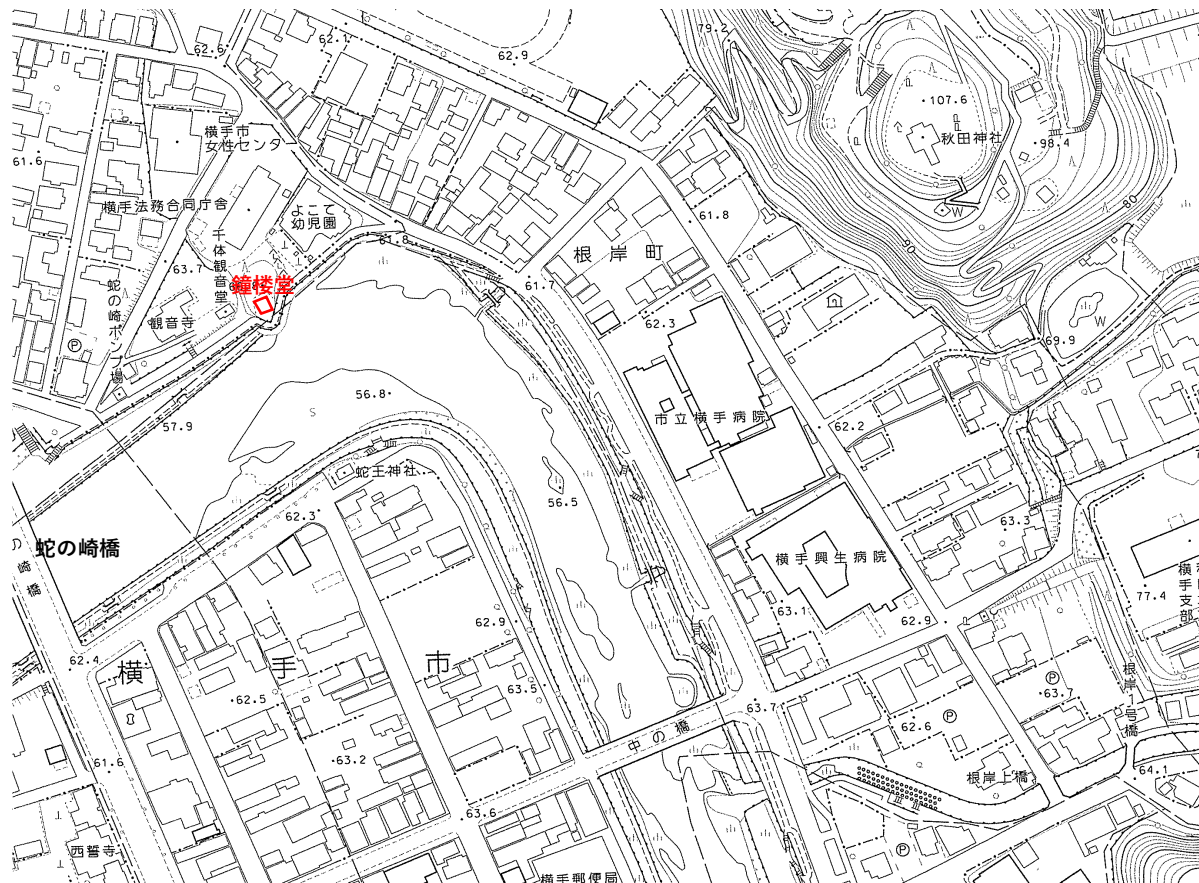
蛇の崎橋は、かつての横手城下の内町と外町との結節点である羽州街道上にある。そのたもと脇（横手川右岸で内町側）の観音寺地内にあるのが鐘楼堂である。現在も市民に時を伝えている。

鐘楼堂は、桁行、梁間とも1間（10尺）の袴腰付、屋根は入母屋造鉄板葺である。現在設置されている鐘には昭和27年と刻まれている。何度か改築されていると考えられ、建物内部の柱材には大正7年の墨書きが確認されるが、建築年代は定かではない。ただし、古写真や絵葉書などの資料から大正期から本場所に鐘楼堂があったと考えられる。

昭和6年12月5日の秋南日報には、「蛇ノ崎橋は横手町の名所にて（中略）橋を越して東に見える鐘楼堂その向ふの一段高き横手公園ありて共に風光の最も優れたる景勝の地」と記されているほか、大正13年の横手案内図の表紙には、鐘楼堂と蛇の崎橋、鳥海山が描かれている。当時から横手を象徴する景観であったことがうかがえる。また、送り盆行事が行われるのが蛇の崎橋と蛇の崎川原であり、送り盆行事、蛇の崎橋、横手城跡、鐘楼堂を重ねてみるができる風景は、横手市民に親しまれている横手を象徴する風景である。

鐘楼堂は、横手城下に見る歴史的風致を象徴する風景に欠かすことのできない重要な建造物となっている。

(位置図)



※1/2500の都市計画図を縮小して表示しています。

写真等



鐘楼堂



鐘（昭和27年）



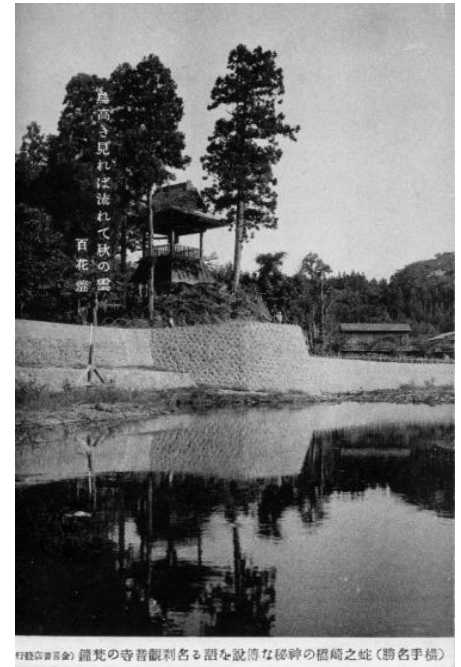
横手案内図（大正13年）



蛇の崎橋の西側からの風景



蛇の崎橋の東からの風景



古写真 金喜書店 戦前か